

| 令和6年度第2回事業評価分科会会議録 |   |
|--------------------|---|
| 日 時                | 令和7年2月17日（月）10時00分～12時14分   |
| 開催場所               | 横浜市役所 18階共用会議室みなと3  |
| 出席者                | 菅野委員、日沼委員、山口委員、六川委員、恵良氏   |
| 欠席者                | 野原委員、簗谷委員   |
| オブザーバー             | 恵良氏、各拠点ディレクター・担当者   |
| 開催形態               | 公開  |
| 議 題                | 1 令和6年度事業仮評価について<br>2 創造界限形成事業の成果指標について<br>3 その他  |
| 決定事項               |   |
| 事務局                | <p><b>【開会】</b><br/>○令和6年度第2回事業評価分科会を開催する。</p> <p><b>【挨拶】</b><br/>○にぎわいスポーツ文化局文化芸術創造都市推進部長から挨拶がおこなわれた。</p> <p><b>【拠点ディレクター紹介】</b><br/>○各拠点ディレクターの紹介が行われた。</p> <p><b>【資料確認】</b><br/>○配付資料の確認が行われた。</p> <p><b>【定足数の確認】</b><br/>○委員6名中4名が出席しており、分科会は成立となる。</p> <p><b>【会議の公開・非公開】</b><br/>○本日の会議は、横浜市の保有する情報の公開に関する条例第31条に基づき会議を公開とする。よろしいか。</p> <p style="text-align: center;">（了承）</p> <p>○ここからの進行は、菅野議長にお願いします。</p> <p><b>議題（1）：令和6年度事業仮評価について</b><br/>○各拠点のディレクターの皆様から、令和6年度の振り返りをお願いしたい。<br/>それではまず、BankARTからお願いしたい。</p> <p>○お手元に、BankARTの資料を配布した。時間が限られているため、全</p> |

ての資料をお渡しできなかったが、事前に一部をお渡ししている。その中にある事業報告書に基づいて話をする。皆さんご存じの通り、BankARTに関しては今年3月いっぱいまで事業を完了することになっている。

ちょうど1年前、横浜トリエンナーレと連携したBankART Life7という展覧会を準備していた。資料のマップとパスポートを見ていただくと内容が分かるようになっている。BankART Stationだけでなく、周辺のポートサイド地区、関内地区、みなとみらい21地区にも作品を展開した。その後、6月にその展覧会が終わり、引き続き島袋道浩さんの個展、それからKAIKOではUnder35という、若いアーティストを紹介する展覧会を開催した。これは、パシフィコで2回目の開催となるTokyo Gendaiに合わせてという形で開催した。

トリエンナーレに合わせたBankART Life7が終わってすぐに、他の展覧会も周りの動きに合わせて開催したので、前半は怒涛のように過ぎた。後半はコーディネート事業で経済を支えている。

今年は外部展開も多く実施したが、11月半ばに来年度以降の運営者公募の不採択が決まった。コーディネート事業が後半にかなり重なっており、それがBankARTの大きな財源でもあるため取りやめることはできない。引っ越し作業を並行しながら現在行っている。3月末までに完了する予定で今動いている。

BankARTの事業は通常の指定管理者制度とは異なり、建物の契約は所有者と直接行っている。また、設備も自己資産扱いとなっているため、撤退作業は相当大変なものである。そのことを横浜市の理解が十分でなかったことが非常に残念である。

撤退や継続に関しては、すぐに動けるものではないため、なるべく早くコンペを行ってほしかったが、結局、契約終了4か月半前の発表となり、BankARTとしては一番避けたかった状況になった。

これまでBankARTと協働していた企業や事業者の方々も、BankARTの後ろに横浜市を見ており、共同事業であるBankARTという存在として見てくださっていたが、急に一介のNPOとなってしまう、多くの方々にも迷惑をかけてしまった部分もある。

現在、BankARTはクラウドファンディングを行っており、引っ越し先の目処もなく、荷物の移動先や来年度以降の経済をどうするかも含めて情報提供を受けている。幸い、これまでの活動の蓄積により多くの協力者に恵まれ、当面の荷物の移動先も確保できた。3月末までに撤退は実現できる方向だが、このスケジュールと対応はとても厳しいことを横浜市や委員会の方々理解していただき、今後このようなことが起こらないよう努めていただきたい。

最後に、20年間BankARTの事業が続いたこと自体がかなり異例であり、やはり横浜市との協力がなければできなかったのも、その部

|  |      |   |
|--|------|---|
|  | 菅野議長 | <p>分に関しては本当に感謝している。また委員会という第三者的な存在があり、三位一体となった体制があったことも重要だったと思っている。これまで横浜市との共同事業であったが、これからはより独立していく。20年間培ってきた関係性や経験を生かし、創造都市横浜の理念に育てられたBankARTとして引き続き活動していきたい。20年間どうもありがとうございました。</p> <p>○ありがとうございました。BankARTの活動については、ここにいる委員、横浜市も高く評価されているということは間違いなことだと思う。</p> <p>それでは次に、黄金町スタジオをお願いしたい。</p>  |
|  | 黄金町  | <p>○本年度の活動報告として、主な成果をまとめてお伝えしたい。</p> <p>全部で5つのポイントがある。1つ目はアーティストインレジデンスの応募者、参加者数の増加と多国籍化、2つ目は黄金町バザールの開催と横浜トリエンナーレや他の創造界隈拠点との連携、3つ目は京急百貨店との連携が強化されたこと、4つ目は国際交流の充実と関係団体の増加である。5つ目は地域との協力関係の評価、拡大である。</p> <p>アーティストインレジデンスに関しては、特に3か月間の短期レジデンスの参加者が昨年度の2倍となった。そのうち全体のほぼ半数は海外のアーティストが占めており、現在、滞在型の施設が足りなく、順番待ちが起きている状態だ。</p> <p>大型のアートイベントとして年間で大きく3つ、春に「黄金町バザール」、夏に「夏休み子どもバザール」、秋に「上大岡で黄金町バザール」を実施した。「上大岡で黄金町バザール」は、上大岡の京急百貨店と連携して、上大岡と黄金町の2会場で実施した。</p> <p>京急百貨店とは数年前から百貨店の催事に合わせた協力事業などを行っていたが、本年度は初めて共同での展覧会を開催した。既に次年度の計画についても百貨店と協議を行っており、上大岡と黄金町の展覧会の開催と、可能であればその中間の京急線沿いを結ぶ地域の展開も検討している。</p> <p>国際交流事業については、これまで中国、韓国、台湾の3つの団体と交流していたが、東アジアのインドネシアやベトナム等との関係ができつつある。本年度はブラジル大使館から依頼があり、アーティストの受入れを次年度以降も行うこととなった。また、台湾や韓国でアーティストの交換派遣を行いたいという団体が増えている。</p> <p>年間を通したアート事業には、アーティストの紹介展示、のきさきアートフェアというクラフトイベント、芸術学校の取組がある。また、外部団体との協力や委託事業での連携も図っている。</p> <p>まちづくりに関しては、従来から引き続き、初黄・日ノ出町環境浄化推進協議会の事務局と、地域の交流拠点であるステップ・スリーの</p> |

|  |  |
|--|--|
|  | <p>開放と運営を行っている。新しい動きとしては、高架下の新しい広場の整備について、京急電鉄及び地域住民、神奈川大学等と合同会議を行っている。そのほか、近隣の小学校から展覧会のつくり方の授業をしてほしいと依頼があり、5年生の総合授業で、アーティストと協力し、小学生が企画した展覧会を3月に実施予定となっている。ボランティアサポーターは大きな活動はなかったが、現在、メンバー獲得に向けて既存のサポーターと次年度の活動計画を立てている。</p> <p>アーティストの人口増加や、近隣のマンションが増えたことによる新しい住人の人口増加がある一方で、地域の空き地や空き家が増えているのが問題となってきている。また、昨年末、複数の不審者が出現し、警戒が強まった。NPOや協議会のメンバーは、この地域の再生がまだ途上であり、今後も取組が必要であることを再認識した。アートをはじめとして様々な取組を行いながらも新しい住民や新しい世代との関係づくりを進めていきたいと思っている。</p> <p>交流団体の増加に伴い、資金の確保と施設の整備が急務である。また、若いスタッフのスキルと経験の向上、ディレクターの世代交代が課題である。</p> <p>菅野議長 ○ありがとうございます。</p> <p>象の鼻テラス ○次に象の鼻テラスをお願いしたい。</p> <p>○象の鼻テラスは、活動が施設の管理運営と文化芸術事業の実施と大きく2つに分けられる。分科会のシートに即して説明をするが、最初に施設の管理運営の実施結果と自己評価を交えながら御説明したいと思う。</p> <p>12月時点の来場者数は昨年度比90%にとどまった。これは2022年度と同じ水準であり、昨年度はコロナ前の2019年度と同等であった。要因として、7月の真夏日が多かったことや、集客型イベントの実施数が挙げられる。また、カウンター集計機器の不具合もあり、現在メンテナンス中である。原因を精査し、対策を講じていく予定である。</p> <p>テラスの稼働日数は202日で、昨年度比125%となった。主催、協力、連携を含め、壁面展示のプログラムを多く実施したことが稼働日数増加の要因である。日常的なアート体験ができる空間づくりが実現できたことは成果であると考えている。</p> <p>観光インフォメーションはボランティアとともに運営しており、ボランティア発案のイベントも人気で定着している。自立的な活動ができていることも成果であると考えている。</p> <p>運営体制については、地震が頻繁に発生しているため、訓練を常勤だけでなくボランティアにも広く呼びかけて実施する予定である。また、気候の極端化により熱中症の対策として、スパイラル社内での情報共有機会である安全衛生環境委員会に参加し、適切な対応ができ</p> |
|--|--|

るよう指導体制を整えている。

広報については、象の鼻テラスはSNS、公式ウェブサイト、外部サイトの書き込みを中心に発信している。フォロワー数は記載の通りだが、個人情報取り扱いのルール上、メルマガ配信ができず、一通一通メール送信していることが課題である。メール以外の方法も模索しており、横浜市のリソース活用の機会があれば紹介してほしい。

文化芸術事業については、象の鼻テラスでテーマに沿った質の高いアートプログラムを展開している。今年度は、黄金町に滞在するアリアネ・メルシエ・ポーさんと堀江和真さんの展覧会を実施した。

単に展示だけでなく、トークイベントや関連イベントを多数実施し、市民との交流を積極的に行った。ポート・ジャーニー・プロジェクトでは、横浜トリエンナーレとの連携企画やアートもりもり!の一環として展示を行った。

BALLET PROJECTは、安藤洋子さんによるワークショップを6月から月1回開催し、1月時点で7回開催、43名、参加総数は83名であった。

象の鼻テラスでは、市民のクリエイティビティを發揮できる場を提供しており、FUTURESCAPE PROJECTでは子どもから大人まで参加できるプログラムを実施し、大学参加枠は6チーム、7作品が参加した。フォトコンテストでは145点の応募があり、昨年度比152%と大幅に増加した。

ダンス縁日には過去最多の68組1433人の市民ダンサーが参加した。昨年度から始めたワールドミュージック事業も継続しており、今週末には8組の市民音楽団が参加予定である。

ぞうさんマルシェ、マルシェを毎週末行っており、新規参加を得ながら着実に参加数を拡大している。

テラスの活動の郊外展開は、鶴見区と港南区で実施されている。鶴見では「鶴見パブリックアートプロジェクト」を立ち上げ、地域住民から壁面を募集し、公募で集まったアーティストが壁画を描くプロジェクトである。会場は16か所、招待アーティスト5組、公募アーティスト11組、小学生71名が特別参加した。本事業は、日本ペイント株式会社の塗料協賛を含む多数の協賛を得て実施をしている。

港南区では、区が主導となり、区民向けのプログラムとして高橋匡太さんの「ひかりの実」を展開した。事前と当日を合わせて600個の「ひかりの実」を製作し、駅近くに飾った。参加者や見物した人々から好評を得ている。

今期は横浜市の事業との連携が多数開催できた。トリエンナーレの連携企画として久保寛子さんの「ハイヌウェレの彫像」や、創造都市20周年の取組で拠点同士との協働ができた。Tokyo Gendaiとの連携で象の鼻テラスでは「SNACK ZOU-NO-HANA」という交流事業が実施さ

|  |   |
|--|---|
|  | <p>れ、訪問者が立ち寄れる場が提供できた。また、区が主導する2027年花博の機運醸成イベントなどでも活用された。</p> <p>今年は象の鼻パークでFUTURESCAPE PROJECTを実施し、「港の夜の夢」と題して子どもたちに楽しい一夜を提供できた。フランスからアーティストのギヨミットを招聘し、夜にはダンスステージを開催。大学やYPAMとの連携により、香港のパフォーマーも参加し、国際色豊かな演目が揃った。さらに、キッチンカーも並べ、パーク内のにぎわいを創出できたと考えている。</p> <p>菅野議長 ○ありがとうございます。</p> <p>次にTHE BAYSお願いしたい。</p> <p>THE BAYS ○2024年は、これまで培ってきたスクール事業、大人向けのビジネススクールを、もう少しバリエーションを増やして広げていこうと活動してきた。</p> <p>評価項目の「多様性/バリエーション」に対して、主に3つの軸を定めて活動してきた。軸1つ目は、人材集約・育成のきっかけをつくることであり、ビジネススクールや子ども向けのアカデミープログラムを継続的に実施し、活動の輪を広げていくこと。軸2つ目は、横浜のまちに染み出していくことであり、横浜市民、観光客、学校、学生など参加者の裾野を広げていくこと。軸3つ目は、横浜やベイスターズとしての価値向上であり、BAYSとしての実績をつくり、他の地域や球団、スポーツチームが行っていない実績をつくること。</p> <p>社会人対象のビジネススクールは、大人向けに2回実施することができた。アンケート結果は非常に高い満足度を示している。日本一になったタイミングで需要が高まっていると感じ、急遽スペシャルセミナーを実施した。ベイスターズのチームビルディングや組織づくりに関する内容で、参加者からは「これまでに参加した中でトップ5に入るセミナーだった」といったうれしい言葉もいただけた。</p> <p>大学生向けの職業体験のようなスポーツビジネススクールも2回実施している。これまでベイスターズの広報の仕事を経験するプログラムを実施してきたが、1月に初めて営業の職種を経験するプログラムを実施した。このプログラムは神奈川や東京を中心に、地方からも参加者が集まり、非常に人気なプログラムになっている。</p> <p>今回、新たな取組として、高校生と大学生を対象に、「スポーツ×まちづくり」をテーマにしたスポーツビジネススクールを実施した。さくら通りの皆様の協力を得て、ベイスターズがある関内のまちならではのイベントを企画。さくら通りを会場にして、試合前の観戦者が訪れるようなイベントを実施し、さくら通りの皆さんにも喜んでいただけた。</p> <p>中学生対象のイベントは3回実施した。横浜を出て、横須賀の2軍のスタジアムを利用し、スポーツビジネスや野球運営を学んでもら</p> |
|--|---|

|  |   |
|--|---|
|  | <p>う3日間のプログラムとして、実際に試合後のイベントをつくり、子どもたちに運営してもらった。</p> <p>小学生対象のお仕事体験では、小学生にツアーガイドになってもらい、自分達で見つけた横浜スタジアム内やスタジアム周辺の横浜公園などの魅力を実際にガイドしてもらった。</p> <p>このように子どもから大人まで各世代にバリエーションを増やすことができたのが2024年の大きな進歩だと思っている。</p> <p>横浜DeNAベイスターズツアーは、BAYSでファンの方と一緒に会議をして出たアイデアが実現した事業である。2024年は実施できる回数全て実施し、悪天候以外は全て完売で好評をいただいた。</p> <p>BAYS 2階のCREATIVE SPORTS LABの会員数の推移とミーティングルームの利用状況、会員の内訳は記載のとおり。</p> <p>評価項目の「波及効果/インパクト」については、軸を3つ定めて行った。軸1つ目は、1階に入っている+Bというショップの「+BASEBALL」というコンセプトを確立させ、商品企画や施策で新しい挑戦をすること。軸2つ目は、&amp;9というレストランで、非日常空間の演出、季節ごとの施策を検討すること。軸3つ目は、地下スタジオをニーズに応じた場の活用によって価値を最大化させること。</p> <p>来館者数は、日本シリーズや日本一のパレードにより、これまでにない来館者数を記録することができた。</p> <p>+Bでは、「YOKOHAMA CITY」と書いてある横浜のグッズを販売。ベイスターズの色を極力なくし、他球団のファンの方にも購入していただいた。また、キャラクター等とのコラボグッズ商品を買求めて、新たにBAYSに来てくれる方をつくれた。</p> <p>&amp;9では様々な企画を実施し、選手とのコラボなどベイスターズが持つ強みをうまく生かして、来館者数の増加につなげることができた。</p> <p>地下のヨガスタジオでは、空いている時間にチアスクール枠を増やし、チアスクールの人数を増やすことができている。現在も200人待ちで大変需要があるので、うまく活用できるように工夫していきたい。ランナーズアカデミーも我々は持っているので、ランニングイベントを月1で実施している。</p> <p>日本大通りの活用については、オープンカフェに引き続き参加している。また昨年に引き続きかなり多くの撮影をしていただいた。掲載しているように、ロケ地として活用してもらうために、こちらからも積極的にアプローチするなど工夫している。</p> <p>菅野議長 ○ありがとうございます。いずれの拠点も、いろいろ進化されて、それぞれの創意工夫が反映されている内容であったかと思う。</p> <p>事務局 ○横浜市から、次に総括をお願いしたい。</p> <p>○年度初めにはトリエンナーレがあり、アートもりもり!というテーマ</p> |
|--|---|

で、これまで以上に拠点の皆様と一緒に活動できてよかったと思う。私も約10年ぶりに創造都市に今年戻ってきたが、トリエンナーレ中にディレクターミーティングや青年部の活動で拠点同士がつながっているのが印象的だった。これもBankARTが先頭に立って引っ張ってくれたおかげだと思っている。

本年度で創造都市施策が始まって20年になった。もともとは関内関外の空洞化問題から始まったが、BankARTが先頭に立って大きな成果を上げてきた。成果が出たことで新たな課題が生まれ、創造都市も変わる必要があると感じている。今は変革期にあると認識している。都市の課題が多様化している中で、アートやクリエイティブの力が有効であることが分かってきたと思う。各拠点が得意分野を生かし、創造都市として成果を上げている。横浜市もその成果をもっと表現し、見せていく必要があると感じている。

各拠点からの発表にもあったが、郊外展開や拠点外での活動も積極的に進められている。BankARTはポートサイド、黄金町は上大岡、象の鼻は鶴見区や港南区、BAYSは関内桜通りなどで活動している。これらの活動が創造都市の幅を広げており、横浜市としても感謝している。

各拠点は人材確保や資金調達、施設の維持などの課題を抱えている。市の予算も現状維持が精一杯だが、資金以外の部分でも協力を進め、これからも一緒に取り組んでいきたいと考えている。

BankARTについても、これまで20年の成果と我々と一緒にやってきた歴史があるので、今後も横浜市としては強力なパートナーとして我々としてはBankARTとも一緒にやっていけたらと思っているので、今後も拠点同士の連携なども進めていきたいと思っている。

今日の御議論の結果は、この評価シートが一番右側の委員会評価に記載して、3月24日の本会議に提出させていただきたいと思っているので、委員の皆様も御議論をよろしくお願ひしたい。

菅野議長

○これから質疑、意見交換に移りたい。各拠点の詳細な報告を直前にいただいたため、質問しにくい部分や分かりにくい部分があるかもしれないが、いかがか。まず、全体的に拠点に対する質問やコメントをお願いしたい。その後、委員会評価として各拠点を1つずつ見ていく形で進めたいと思うが、よろしいか。

(了承)

菅野議長  
六川委員

○では、お願ひしたい。

○まず、BankART1929については、私も最初の選定に関わらせてもらった。そういった意味では本当にお疲れさまです。

横浜市の対応が慎重であるため、時間がかかることがあり、旧第一銀

|          |  |   |
|----------|--|---|
|          |  | <p>行でも同様のことがあった。今後の対応策として、横浜市も含めて考えていく必要があると考えている。</p> <p>それから黄金町について、海外からのビジネスが増えてきて、大使館からもサポートをいただいていると。このような取組・スキームは初めて実現したのか。</p>   |
| 黄金町      |  | <p>○スペインのバスク地方では、若手アーティストを支援するためのグランプリが実施されており、優秀賞を取ったアーティストには、副賞として日本でのレジデンスが用意されている。具体的には、黄金町や女子美術大学、遊工房などで滞在制作ができる。黄金町は2014年頃からこのプログラムの受け入れ先として関係を築いており、最近ではブラジル大使館からも同様の相談があった。</p> |
| 六川委員     |  | <p>○長期、短期はどういうすみ分けか。</p>  |
| 黄金町      |  | <p>○短期が3か月間、約90日間の短めの滞在。長期レジデンスだと約1年間の滞在になっている。</p>   |
| 六川委員     |  | <p>○海外からの短期の申込みがすごく多いが、それは逆にそれだけ評価されているということか。</p>  |
| 黄金町      |  | <p>○そう思っている。あとは、短期で滞在したアーティストたちが自分の周りに広めていき、友達や知り合いのアーティストが新たに申し込んできているというのが最近の状況。</p>  |
| 六川委員     |  | <p>○象の鼻テラスは観光インフォメーションとあるが、これはシティガイド協会などともコラボしているのか。</p>  |
| 象の鼻テラス   |  | <p>○はい。当初期は、シティガイド協会の方々とまさにコラボレーションしながらスタートを切りまして、今日はボランティアの方々を中心に観光案内をさせていただいています。</p>   |
| 六川委員     |  | <p>○BAYSについては、三井不動産が大きなビルを建てるが、そういう施設とコラボレーションみたいのはい何か考えているか。</p>   |
| THE BAYS |  | <p>○はい。検討はしており、社内では議論は出ているが、まだ具体的には決まってはいる状況。</p>   |
| 六川委員     |  | <p>○地域と一生懸命コラボしようという雰囲気は伝わってくるが、もっと多くの方法があるのではないかと思う。それは当然考慮されているのか。</p>  |
| THE BAYS |  | <p>○ベ이스ターズとしてのコラボレーションはいろんな角度から考えてはいるが、BAYSとしてはまずは関内のまち中心のコラボを考えている。</p>  |
| 六川委員     |  | <p>○分かりました。</p>   |
| 菅野議長     |  | <p>○ほかの委員はいかがか。</p>   |
| 山口委員     |  | <p>○BankARTについては、大変お疲れさまでした。横浜市の創造都市文化政策の本当に象徴的な存在であり、感慨無量である。</p> <p>黄金町の国際展開は非常に良いと感じている。逆に施設が不足して困っている状況なので、具体的な良い展開があることを期待する。海</p>   |

|              |  |
|--------------|--|
| 菅野議長<br>日沼委員 | <p>外のアーティストから「黄金町」という名前を聞く機会が非常に増えたという印象がある。</p> <p>また、前年度から中国や韓国、他の外国の方を職員として採用していることを知り、非常に良いことだと思う。世の中だけでなく、自分たちの組織も多様化しないと、多様化をテーマとして扱うことに信憑性が欠けると思う。今後、文化施設の内側でも多様化が求められていくだろうと感じている。</p> <p>象の鼻テラスは、ポート・ジャーニーという港町にある施設の世界的なネットワークに属している。以前ハンブルクで仕事をした際、ハンブルクのギャラリーの方から相談を受けたことがあり、同ネットワークにしっかりとつながっていることを実感した。非常に良いことだと思う。</p> <p>BAYSについては、様々なニーズに合った活動を行っている印象がある。</p> <p>○次に日沼委員、お願いしたい。</p> <p>○他の委員の皆様と同様に、これまでのBankARTの活動に対して深い敬意を表している。これからも世界で唯一の活動体であり続けると思う。形態が変わったとしても、素晴らしいスタッフや支援者がクラウドファンディングを通じて多くの方々と共にこのムーブメントを作り上げてきたことを改めて感じている。今後も横浜市と協力体制を継続できることを願っている。</p> <p>初黄・日ノ出町についてだが、コロナが収束し、海外からの問い合わせが増え、活動も活発になっている。昨年末に釜山の文化財団を訪れた際、BankARTと黄金町の話を書かない場所ではなかった。特にアジアとの交流において信頼されている場所であることがよく分かった。山野代表とも訪問したが、日本とアジアの窓口としての活動は海外で非常に期待されている。特に首都圏でレジデンシーを自由に展開できる場所は少なく、今後も期待が大きい。ただし、施設や運営体制については試行錯誤しながら独自の展開を続けていくことを期待している。</p> <p>象の鼻テラスは安定した運営とともに、拠点外での活動や質の高い事業を展開している。これにより、ますます横浜にとって欠かせない存在となっていくと思う。</p> <p>最後にBAYSについてだが、私も情報不足であり、今日改めて年間の事業について教えていただき感謝している。毎回の会議で指摘があるかもしれないが、他の拠点とは異なるビジネス展開をしている。スポーツとクリエイティブの部分はどう解釈するかについては、多くの委員から指摘があるかと思う。</p> <p>ただ、SPORTS LABにはアクセサリーやデザインの事業者、広告のグラフィックデザインなどが含まれている。事業報告にもあったよう</p> |
|--------------|--|

|  |   |
|--|---|
|  | <p>菅野議長</p> <p>に、創造限界でしかできない展開が期待される。BAYSが入ることでスポーツとクリエイションがどのように発展するか、他の拠点とも連携し、一体化した展開を期待している。以上だ。</p> <p>○BankARTについては、創造都市としての横浜市の政策の中で、20年間フロントランナーとして駆け抜けてきた。そのイメージを作り上げたことは高く評価できる。</p> <p>しかし、次のステップとして、20年前とは異なるこれからの時代の要請にどう応えていくか、どう進化していくかが問われていると思っている。BankARTの今後の活動に期待しており、支援できることがあれば、引き続き協力したいと考えている。</p> <p>次に黄金町についてだが、先ほど世代交代について言及があった。これまでの4拠点においても、世代交代は非常に重要な節目となる。世代交代を進める際に、これまでの人材育成の考え方がどのように反映されているのかが気になっている。</p> <p>先ほど六川委員もおっしゃったように、黄金町は着実に海外にも知られるようになっており、海外展開や人材の多様性において、日本の組織形成のモデルとなっています。これからも発展し、活躍されることを願っている。</p> <p>象の鼻テラスの活動が着実に展開されていることは理解している。しかし、今後の方向性について、特に郊外への展開、守りに入らないための取り組み、そして独立性や経済的な持続可能性について、もう少し詳しく教えていただきたい。</p> <p>象の鼻テラス</p> <p>○港南区での事業は、港南区の財源に基づいてプログラムを計画している。そのため、財源が確保されれば継続可能だと思う。また、他の区でもいくつかの取り組みを行ってきたため、ニーズがあれば対応する形になると思う。</p> <p>鶴見区については、先ほど山口委員からもあったように、港町の交流事業の中で生じた事業である。自発的に取り組みがスタートしており、鶴見区の助成金が約10万円入っているが、まちづくりの取り組みをアートで推進するには不十分な予算である。</p> <p>昨年度は横浜市から郊外展開の事業サポートを受け、何とか目鼻がついた形になっている。しかし、2019年からこの取り組みをスタートして6年目になろうとしており、ようやく地域の方々に受け入れられつつあると実感しているため、途中で方向転換することはできない。現在、地域の方々と話しているのは、10年間はパブリックアートプロジェクトとして、アートを軸にしたまちづくりを一緒に取り組むということで、口頭レベルでは約束している。</p> <p>いずれにしても、最大の問題は活動の根拠となる体制と、その事業費の確保である。地域の企業や各種団体から少額のサポートをいただきながら何とかやっているが、事業を続けていくと、拡張したい、</p> |
|--|---|

|  |      |  |
|--|------|--|
|  | 菅野議長 | <p>増強したい、より良くしたいという思いが募ってくる。これをどう実現するかが現在の最大の課題である。</p> <p>○BAYSについては、スポーツのマネジメントは人気が高まっている。その中で、小中高の年齢層を取り込むことが非常に重要であると感じた。昨年はベイスターズが大活躍し、横浜市におけるベイスターズの認知度が向上した。全国的にも認知度が高まっていると察している。BAYSの活動に対する認知度も高まっているのではないかと感じている。日沼委員が言っていたように、スポーツとクリエイティブは遠い存在に思われるが、デザイン性やクリエイティブな活動は、今後アート以外の分野、例えば医療などにつながると思う。</p> <p>そういった点を踏まえながら、活動を新たなクリエイティブな方向に展開することは非常に有効であると思う。ぜひ発展させていただきたい。ただ、以前より活動のバラエティが増え、プログラムも充実してきていると感じている。</p> <p>恵良オブザーバーからもお願いしたい。</p>   |
|  | 恵良氏  | <p>○BankARTの今年の活動を見て、久しぶりにポートサイドにも視野を広げられたと感じる。これを見ると、インナーハーバーが再び視野に入ってくる。関内の旧都心、みなとみらい、ポートサイドの3つが揃うと、面的なインナーハーバーの全体像が見えてくる。創造都市の始まった頃の発想が新しい地平を開くような段階まで来たとの印象を受けた。</p> <p>また、BankARTは自主事業を多く行い、さまざまな部分を開いてきた実績がある。これからの活動にもその実績が生かされるだろうし、非常に期待している。</p> <p>レポートを見て、公共空間の活用において防犯について語られていることに気づいた。ビルではセキュリティー1.0やセキュリティー2.0といった言葉が使われるが、公共空間ではセキュリティー0.5程度を考慮しなければならないと改めて感じた。この点について気づきを与えてもらった。これからの活動に期待しているので、よろしくお願いしたい。</p> <p>黄金町の活動を見て気づいたのは、各世代にわたってさまざまな活動が行われていることである。みなとみらいやBankARTが企業市民との接触を持っているのに対し、黄金町ではアーティスト市民が生まれているのではないかと感じた。子どもたちも含めて、活動に参加した人々がまちに対する視点や自立的なアプローチを持ち始めており、それが黄金町の運営側の仕事の軽減や共有につながる可能性がある。まちづくり系の人々とのコミュニケーションのチャンスが広がっていると感じる。</p> <p>象の鼻については、パブリックスペースの使い方が進化しているこ</p> |

|  |  |
|--|--|
|  | <p>とを評価している。また、鶴見での活動については、京浜工業地帯の土地利用の転換の流れの中で居住地帯がどうなるかを考えさせられた。都心のエッジ部分、例えばパリのエッジ部のような場所での事例もイメージして鶴見を捉え直すと課題解決のヒントを感じる。都心エッジ部への視点は非常に重要であり、こうしたエリアが見落とされがちなことを改めて認識した。</p> <p>BAYSの評価軸を3つ定めたことは、外部の方とコミュニケーションをするための軸として意味がある。地域社会やエリアと協働する軸が生まれることで、エリアの方々と非常にコミュニケーションが取りやすくなる。親会社が進めている再開発を考える際にも、この視点から語ることで視点を広げるチャンスと思う。この部分で地域の方と連動し、新しいものが生まれるきっかけを作るチャンスがある。この評価軸を大切に捉えてほしい。横浜市のウォーターフロントは公共空間が非常に豊かであり、関内駅の西側にも海沿いの意識が広がっている。これを広げていくと、公共空間の活性化においてスポーツやスポーツ文化の果たす役割は非常に大きい。大変だと思うが、こうしたフィールドまで視野に入れることで発想の幅が広がる。ランニングなどの事業を行っているので理解されていると思うが、ウォーターフロントエリアの公共空間の活性化を促進する方向に進まれて、海面も含めて可能性が広がると良いと思う。これは横浜市の都心にぎわいや、ベイスターズが一翼を担っている野球場による都市の活性化とも関係してくる。大きな視野のものあれば小さなアクションもあるので、公共空間の活用の視点を頭に置くとビジネスチャンスになるかもしれない。この視点が新しい駅前再開発と街とを関係づける役割を担えるチャンスになると感じた。よろしく願いしたい。</p> <p>菅野議長 ○ありがとうございます。とても重要なポイントだと思う。<br/>ほかに質問がある委員はいるか。</p> <p>菅野議長<br/>事務局 ○ないようなので、事務局から補足をお願いしたい。<br/>○今、委員の皆様からいただいた意見を事務局で評価シートにまとめ、それを別途ご確認いただくプロセスを進めたいと思う。</p> <p>菅野議長 ○承知した。</p> <p style="text-align: center;">(拠点ディレクター退室)</p> <p>菅野議長<br/>事務局 ○急な坂スタジオについて事務局から説明をお願いしたい。<br/>○本日、4拠点の評価ということでここまで進めさせていただきましたが、急な坂については、作成が本日の会議に間に合わなかったため、作成ができ次第、委員の皆様にお送りするので、ご確認いただき、事業評価シートを完成させたい。</p> |
|--|--|

(了承)

**議題（２）：創造界限形成事業の成果指標について**

菅野議長 ○議題２の創造界限形成事業の成果指標について事務局から説明をお願いしたい。

事務局 <事務局より資料を基に説明>

菅野議長 ○本日も欠席の野原委員からコメントがあったので、事務局からお願いしたい。

事務局 ○1つ目が目標設定のところで、ポイントをかいつまんで説明する。創造施策の成果指標について、まずは創造施策を通じて何を目指すのか、目標像が明確でないと指標が出せない、目標設定が大事であるというコメントをいただいている。その際に、創造都市を通すとどういったメリットや効果が生まれるのかを意識した目標設定が必要と言われている。つまり、先ほど示したロジックモデルも、他の事業でも通用するのではないかという意見もあり、創造都市でしかできないものは何かをしっかりと考える必要があるという意見をいただいている。その一つの視点としては、大きな投資をしなくても、クリエイティビティーや工夫によって、より効果的に豊かさをもたらすといったコストパフォーマンスの良さがこの施策の一つのポイントになるのではないかとコメントも併せていただいている。

2つ目の評価に関しても、今の話と通じるところがあるが、何を評価するかという点はもう少し整理したほうがよいという意見をいただいている。あまりにも大きな目標や漠然としたアウトカムが設定されていると、実際に行ったことが実現できているかどうかの評価が難しくなるため、目標の絞り込みをもう少し行ったほうがよいという意見。

3つ目の創造産業についてであるが、以前、創造都市施策が始まった当初、創造産業は4つの目標のうちの1つに掲げられていた。また、今回もロジックモデルで記載されている。ただ、野原委員からは、現在の拠点の役割として考えたとき、THE BAYSのみに設定されているものの、実態としては創造産業に対する施策があまり強くないのではないかと意見をいただいている。今後、施策の中で創造産業を実行するためには、他の施策を含めて目指す必要があるという意見である。現在、本市の経済局も起業に向けて、横浜の強みであるクリエイティブを交えて進めている状況であり、庁内連携を含めて創造産業の施策が展開できることが望ましいという意見もいただいている。

|      |   |
|------|---|
| 菅野議長 | <p>○ありがとうございます。</p> <p>議題について、各委員から意見をいただきたい。</p>   |
| 山口委員 | <p>○創造都市施策で目指す姿の再考について、外的価値と内的価値という分け方が適切かどうか不安に感じている。急な坂については交流促進しかなく、もとは稽古場としての運営が主である。その中で稽古場を提供し、様々なプログラムを通じて舞台芸術における新しい価値を創出することが1つの目的である。また、人材育成も重要な役割であり、その両方が役割整理の中で浮かび上がるとありがたい。</p> <p>ただ、公演ができないため、多くの人を集めることが難しく、数値だけで活動の実態や状況を把握するには無理があると懸念している。最近ではナラティブ、つまりストーリー性を重視する傾向があり、活動の成果を言語化する方法がある。数値化は楽だが、数値に現れない価値を生み出していることを考えると、創造性は十分にある。</p> <p>例えば、学校にダンサーやアーティストを派遣し、アートやダンス、舞台芸術に関する啓蒙活動を行っている。急な坂スタジオが担う役割をもう少し可視化していただけるとありがたい。</p>  |
| 恵良氏  | <p>○3番のロジックモデルについて確認する。ロジックモデルでは、アウトプットまでは事業主体側が捉えるが、アウトカムは受け手側になるため、主体が変わる。この変換は非常に重要であり、新たな主体を生成するフェーズであるという認識を持たないと、アウトカムがその先につながらない。短期アウトカムの生成を上手に行うことで、中期アウトカムに繋がるエビデンスが見えてくるため、この変換点を意識する必要がある。</p> <p>次にKPIについて。KPIは数値としての見える化が必要だが、何のためのデータかを意識することも重要である。数値以外の見える化、例えばナラティブな表現や発信力の視点も考慮すべきである。国際会議などを開催することで発信力が広がりなども、ブランディング上も重要である。こうした節目をKPIとして視野に入れると説得力が増す。</p> <p>また、拠点ごとに社会課題の宝庫である都心部のエッジ部、例えば横浜の南区や鶴見区を視野に入れることも重要である。加えて、持続可能な社会はあらゆる政策の基本であり、創造政策が二酸化炭素の数値を扱う話ではなく、全体の基本として動いているテーマと切り分けてKPIを整理する必要がある。創造都市政策が短期施策の積み重ねであることを踏まえて、基本的な部分をしっかりと認識することが重要である。</p> |
| 日沼委員 | <p>○実は私は既に次の評価について拠点と話し始めており、この評価指標に基づいた新しい評価シートや事業評価の対話を進めている。長年黄金町に関わってきた経験や業界の知見から感じる違和感を、事業者と一緒に突き詰め、対話しながら変更を進めている。</p>  |

|  |  |  |
|--|--|--|
|  |  | <p>山口委員もおっしゃったように、様々な知見を持つ経験者と、拠点が目指すものやこれまでの取り組みを理解した上で、一緒に目標値を決めていくことが重要である。これはあくまでベーシックな目標だが、拠点ごとに丁寧に進める必要がある。お互いに納得しながら目標値を決めることが大切であり、他の拠点についても同様に丁寧に進めていただければと思う。</p> <p>六川委員 ○KPIの案が提示されているが、調査に時間がかかるため、その点が非常に懸念される。先ほども意見があったように、もう少し迅速にコミュニケーションを取れる指標が必要である。調査を行い、その成果をどう生かすかという形になると、時間がずれてしまうため、タイムリーに対応できる方法も併せて考えるべきであるという印象を持っている。</p> <p>菅野議長 ○このロジックモデルは、これまでよくまとめられていると思う。ただ、先ほど委員の何名かが指摘していたように、ロジックモデルを使う際に最も重要なのは、市民に対してこの施策がどのように役立つかという点である。対象者がそこにあり、各プロセスが見える化され、数字に惑わされない評価が重要であると考えます。</p> <p>数値の正確性を判断するのは難しいため、独自の調査には時間がかかる。しかし、それができれば、ロジックモデルは固定ではなくスターティングポイントとして考え、実証実験を続けながら最終的な成果に向かうことができる。</p> <p>横浜市として独自のロジックモデルを作成し、実証実験を通じて最終的な成果を目指していただければと思う。</p> <p>恵良氏 ○あと2つ指摘したい。</p> <p>1つ目は、六川さんの意見に関連するが、時間を短縮する際に、短期、中期、長期を均質に進める必要はないが、同時並行的に考えて欲しい。短期の目標を達成しながら中期のことも考え、長期の方向性を見失わないようにすることで、無駄を省き、時間を短縮できる。</p> <p>2つ目は、短期、中期、長期のアウトカムの範囲についてである。創造都市政策の範囲が広がると、主体が変わり、観測する指標は続くが、プロジェクトの主体は移行して、政策進行側の負荷は減る。そうしないと、政策進行側が横浜市の各種政策に係る領域の拮がりが生じ、過大な負荷を追うかもしれない。中期、長期になるほど他の政策局や事業局の考え方もあると思われるので、共有されるものでないと実効力がない。経済指標なども含め、他局にクリエイティブな考え方を伝える役割が長期志向になるほど意識する必要がある。</p> <p>菅野議長 ○ありがとうございます。</p> <p>特にこれ以上意見がないようであれば、議題2についても御了解を得たということによろしいか。</p> |
|--|--|--|

|      |  |
|------|--|
|      | <p style="text-align: center;">(了承)</p> <p>菅野議長 ○では、これから横浜市のほうでまた御検討いただきたい。これで議事が全て終了したので、進行を事務局のほうにお戻しする。</p> <p>事務局 <b>議題(3):その他</b><br/>         &lt;事務局から議事録の確認依頼や今後のスケジュール等について事務連絡が行われた。</p> <p style="text-align: center;">【閉会】</p> |
| 資料   | <p>① [資料1] 分科会委員名簿</p> <p>② [資料2] 前回分科会議事録(令和6年8月7日開催分)</p> <p>③ [資料3] 令和6年度事業仮評価について</p> <p>④ [資料4] 創造界限形成事業の成果指標について</p>   |
| 特記事項 |  |